

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



「学校見学がスタート!!」

次年度、支援員配置や通級指導教室の利用を考えている、あるいは特別支援学級入級や特別支援学校入学を考えているお子さんと、その保護者の学校見学がスタートします。

「見学に行くと、3年生のお兄さんが、周りの友達から、からかわれるのではないかと心配なので、お兄さんの学級を通らないようにしてほしい」、「お姉さんと同じ小学校に弟が入学すると、周りの友達からお姉さんが何か言われるのではないかと思いますので、別の小学校に入りたい」など、保護者の不安な気持ちや苦しい胸の内を聞きました。まだ我が子の強い特性（障害）を受容することが難しい段階の保護者にとって、心ない言葉、視線、無関心、偏見、差別的な意識等、人々の心の中にある見えないものに苦しんでいることを痛感しました。

1 園にお願いしたいこと（保護者の心情に寄り添うチャンス！）

- ・能代地域生活支援センター（前びあわーく）を利用しているお子さんは、6月から7月にかけて、小学校見学を予定しています。お子さんや保護者が安心して見学できるように、可能な範囲で園の先生の同行をお願いします。
- ・就学先に悩んでいる保護者には、教育委員会に相談するように伝えてください。また、7月11日（木）・12日（金）と9月20日（金）、能代市中央公民館で開催する「就学や教育に関する相談会」の利用を勧めてください。なお、特別支援学校の見学及び教育相談は、所属園から相手校の教頭先生に電話で申し込むことになっています。



2 小学校にお願いしたいこと（子どもの実態把握のチャンス！）

- ・お子さんと保護者の見学には、園の先生、能代地域生活支援センターの先生、教育委員会就学担当者が同行します。支援員配置の学級、特別支援学級、通級指導教室等を見学します。見学後に、学校説明や保護者からの質問に答えてほしいと思います。
- ・慣れない場所なので、お子さんによっては、泣いたり、落ち着きがなかったりすることが予想されますが、おおらかに対応してもらえるとうれしいです。昨年度、学校見学後に「また来てね。待ってるよ」と温かい言葉を掛けてもらい、心が救われて就学先を決めた保護者がいました。何気ない一言や丁寧な対応が、就学先決定の決め手になります。
- ・保護者の不安を取り除くために、特別支援学級の子どもたちの様子、一人一人に合った合理的配慮の提供、「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用した指導の充実等、特別支援学級の特色ある教育課程の編成や周囲の理解について説明してください。

特別支援学級は、子どもが自分らしく学べる場、自分のよさを最大限発揮できる場、将来の自立に向けて力が身に付く場です。また、周囲の子どもたちにとって特別支援学級の子どものとの触れ合いは、障害に関する正しい見方や考え方を育む機会になるとともに、互いの「違い」を認め合える学校づくりにつながります。

**とれたて直送便****「何気ない一言に救われた」～あるコラムより～**

- 1 高校時代、長く飼っていた犬が死んで泣きじゃくっていたとき、保健室の先生に慰めてもらいました。「お別れがあるから、その時を大切にできるのよ」と言われ、思わず納得。犬の死を前向きに受け入れることができました。
- 2 娘が幼稚園の頃、我が子に反発ばかりされて悩んでいました。幼稚園の担任の先生に、面談のときに打ち明けたら、「私はA子ちゃんが大好きです。お母さんも今のままで大丈夫です」とおっしゃってくださいました。A子を大好きだと言ってくれたこと、私を肯定してくれたことが、その後の支えになりました。